

活動内容

〈題〉「家庭・地域社会・学校が一体となって地域の宝を育てよう」

学級名 盛岡市立渋民小学校

学級担当者 正木 啓一

1 学級の組織ならびに学習のねらい及び重点

- ・ 構成員 渋民小学校 PTA 会員、地域住民、渋民小学校児童
- ・ 学級の運営組織 渋民小学校区教育振興協議会
- ・ 学習のねらい、重点 家庭・地域社会・学校がそれぞれの役割を担いながら、地域の宝である児童の健やかな成長を一丸となって支えていく。

2 学習計画と活動の状況

回	日時	講 話 題	講 師 (職・氏名)	参加人数
1	12月2日	「自分からできる子」を育てる親の魔法の言葉とは	日本支援助言士協会、コミュニティーカウンセラー、アドラー東北勇気づけ ELM リーダー、NPO 法人いわてアートサポートセンター所属 東海林 千秋 先生	(交流会参加合計人数) 80 人
		内 容	感想 等	
		日頃の子どもたちへの声かけや支援を振り返り、グループワークを行いながら、子どもたちが自分からできる力を育てるための、心が動く言葉かけや、保護者の考え方、発想を切り替えた支援について学ぶ。	今年度は150周年記念式典・集会並びに教育振興協議会第Ⅶブロック発表会での発表と活動が多いため、12月2日(土)に行われた第Ⅶブロック研修交流会を「学びのつどい」とした。講師先生に言葉かけや支援の仕方のアドバイスをいただくとともに、お互いの考えを交流し、子育ての難しさや親としての思いを共有しながら、自分からできる子を育てるための要点を学ぶことができた。	
2	2月22日 開催予定	大切ないのちについて	岩手医科大学看護学部成育看護学講座 講師 西里 真澄 先生	児童・保護者 60 名 (予定)
		内 容	感想 等	
		思春期の児童とその保護者が、かけがえのない命の大切さについて、講師から学ぶ機会とする。	(2月22日開催予定)	

3 成果及び今後の課題

(1) 成果・コロナ禍にあって工夫したこと

今年度は新型コロナが5類に移行したこともあり、手指消毒や換気等の感染対策を取りつつ、通常通りの参集式で開催した。また、グループワークでは、少人数にして感染リスクを抑えながら意見交流を行った。

(2) 今後の課題

今年度の講習の内容も非常に勉強になったが、今年度は特に PTA の関わる行事が多く、検討する時間が短かったため、今年度の予定終了後、来年度に向け、改めて小学校区全体で学びたいことやニーズを把握し、効果的なつどいを開催できるよう準備を進めていきたい。

(3) その他 今後の「学びのつどい」の在り方に関すること等

特になし